

観点 1	基礎・基本の定着
観点 2	主体的に学習に取り組む工夫
観点 3	内容の構成・配列・分量
観点 4	内容の表現・表記
観点 5	言語活動の充実

第 1 推薦	38 光村図書
第 2 推薦	2 東京書籍

小学校 国語 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東書	観点 1	単元末に学習の重点となる「言葉の力」を明示し、重点的な学習により確実な習得を図ることができるようにしている。
	観点 2	自ら学び、課題を解決する能力を育成できるよう、単元を課題解決的な学習過程にそって構造化し、学習の見通しや振り返りのための手だてをロードマップやつながりが見える目次等で豊かに提示している。
	観点 3	おおむね上巻では一つの領域に集中して学習する単元を配列し、下巻は各領域の学習を組み合わせ、総合的に展開する単元を配列している。
	観点 4	巻末に今学年と前学年の言葉の力のまとめや活用例が「話す・聞く」「書く」「読む」にわけて示してあり、学年のつながりや違い（成長）を明らかにしている。
	観点 5	報告文では、全学年のつながりを明記し、モデルとなる作品を 1～2 ページにわたって紹介している。
11 学図	観点 1	線引き、抜書き、表作り、引用、要約等の方法を系統的に取り立てて示している。また、文法事項を繰り返し掲載している。
	観点 2	2 学年以上の上巻の冒頭で詩に続いて「学級作り」を設定している。また、各学年下巻では学年に応じたコミュニケーションの取り方を示している。中・高学年説明文と 5 学年下巻物語に「読むレッスン」として脚問付きのプレ教材を設けている。
	観点 3	一つの領域に集中して学習する単元と、各領域の学習を組み合わせ、総合的に展開する単元を配列している。
	観点 4	巻末の資料に「国語のカギ」として「話す」「聞く」「書く」の観点に分けた学習のまとめがある。巻末に「保護者のみなさまへ」として、この教科書で目指す力の説明がある。
	観点 5	物語「これであなたも作家になれる」（4 学年下）脚本「人物を生き生きとえがき出そう」（5 学年下）「ぼくの・私の物語作り」（6 学年下）など、児童の興味・関心を引くような題材を紹介し、その書き方を説明している。
15 三省堂	観点 1	角書きで学習のねらいを示し、それに対応した学習過程を学習の手引きで具体的に示している（全学年）。
	観点 2	国語辞典（2 学年～6 学年）や漢字辞典の活用に関する教材（3 学年以上）を系統的に配列している。

	観点3	一教材一領域にねらいを焦点化して配列している。 本編と別冊の2冊構成である。(1学年のみ上下巻2冊構成)
	観点4	巻末の既習漢字の配列が五十音順ではなく、学年ごとである。また、次の学年で学ぶ漢字も取り上げている。単元後に、新出漢字の書き順を示している。
	観点5	「はがき・手紙」の書き方について1学年から4学年で取り上げ、繰り返し説明している。
17 教出	観点1	各単元の冒頭に目標を示し、より具体的な目標も併記している。
	観点2	2学年以上の第一単元の物語教材において、読み取った内容をもとに書く活動へと結び付けている。「話す・聞く」「書く」の単元では、学び方を示し、図式化している。
	観点3	1つの領域に集中して学習する単元と各領域の学習を組み合わせる総合的に学習する単元を配列している。どの学年も最後に「国語の学習 これまでこれから」と称して、学習を振り返り次年度への意欲をもたせるようにしている。
	観点4	巻末の「付録」に「この本で学ぶこと」を簡潔に示している。また、各学年で身につけたい学び方(横書きの書き方やアンケートの取り方等)や言葉(「言葉の木」「言葉の星座」)を掲載している。
	観点5	「読む」単元の終わりに「本を読もう」のコーナーを設けたり、各学年上下巻末の「付録」に「〇年生で読みたい本」を示したりして、学習を日常の読書活動へ結びつけようとしている。
38 光村	観点1	「てびき」で学習の視点と発表例を示し、「たいせつ」で学習して身につけたい力を示している。伝統と文化に関する内容は、「声に出して読む」「聞いて楽しむ」ことを中心に、単元数・ページ数とも豊富に掲載している。
	観点2	「読むこと」単元の手引きが、全体を見通して取り組めるよう、見開きで構成している。単元でつけたい力につながる読みの課題を設定している。下段に言語活動の手順を示している。 「活動の流れ」を、重点で色を変えて示している。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の活動のゴールのイメージを、発表例や作例で具体的に示している。 定評のある文学作品、現代社会や自然等に目を向ける文章など、関心を持って読む教材が充実している。3学年以上の説明文単元は、見開きで文章構成を学ぶ第1教材と、学んだことを活用して読む第2教材のセット構成である。
	観点3	一つの領域に集中して学習する単元と、各領域の学習を組み合わせ、総合単元を配列し、読んだことを生かして、書いたり話したりする単元構成になっている。
	観点4	説明文では、写真や図表、グラフなど様々な資料を掲載している。また、単元末尾に振り返りポイントとチェック欄がある。

	観点5	学習指導要領で示された言語活動例（手紙・報告文・物語・詩・随筆等）を、低・中・高それぞれの段階でバランスよく配置している。また、2学年以上に「言葉の準備運動（話す・聞く）」を設定し、言語活動を楽しく実施できるようにしている。
--	-----	--